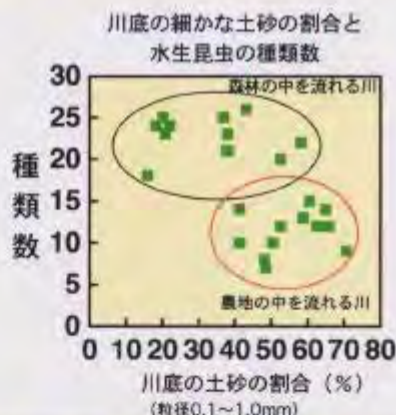


水生昆虫のすみか—浮き石—を維持する森林

一生の大部分、あるいは全部を水の中で過ごす虫を水生昆虫といいます。水生昆虫は落ち葉などの有機物の分解者として、また溪流魚の食料源として重要な役割を果たしています。こうした水生昆虫にとって、浮き石構造(川底の石と石のすき間)は、生息場所として大事な空間です。しかし農地開発などによって森林伐採がすすみ、農地や河岸から細かな土砂が直接川に流れ込んで浮き石が埋まった川が見られるようになりました。川底の細かな土砂の占める割合とその場所の水生昆虫の種類数を調べてみると、細かな土砂の割合が増えると、水生昆虫の種類が少なくなることが明らかになりました。森林の再生や治山工法による細粒土砂の制御は、水生昆虫の生息環境の改善にも役立つ可能性を持っていると言えるでしょう。

(流域保全科)



川のすぐそばまで畑が迫っているところでは



川底に細かい土砂が厚く堆積している



土砂の流入が少ない森林河川では



浮き石構造が発達し、水生昆虫が巣をつくっている